

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2013/10/01

ヘッドラインに振らされる相場に

通貨ペア	基調		ページ数
ドル/円	➡	米国の議会とFOMCを眺めながら 予想レンジ: 95.50 ~ 102.00 円	2 - 3
カナダ/円	➡	リスク選好盛り上がり欠ける 予想レンジ: 92.50 ~ 98.00 円	4 - 5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



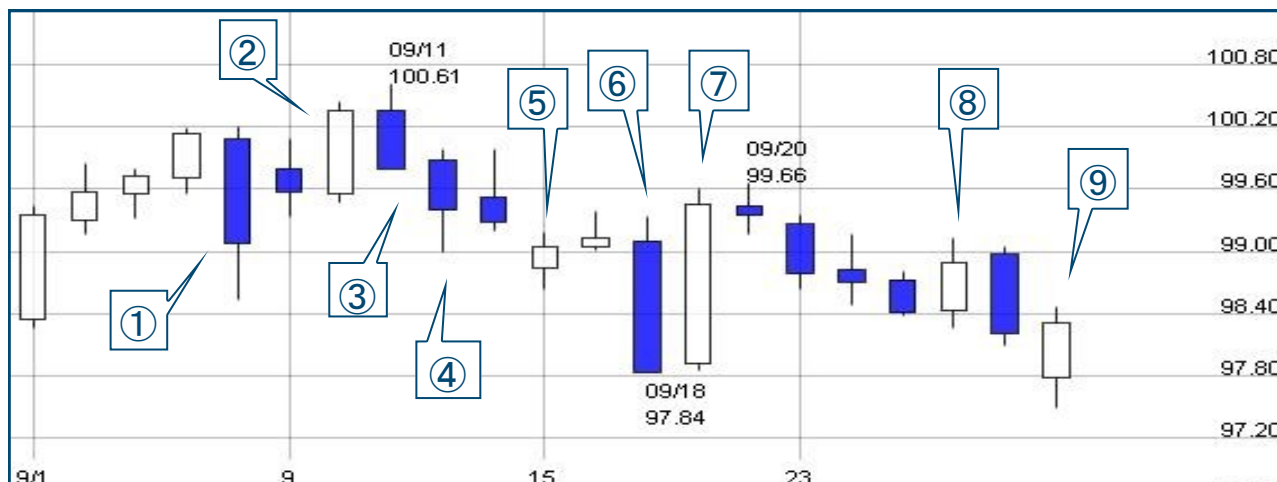
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD / JPY

ドル/円 9月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	98.35円	100.61円	97.50円	98.32円



① 6日、米8月雇用統計は非農業部門雇用者数が16.9万人増と市場予想(18.0万人増)を大幅に下回った上、過去2カ月分も下方修正された。失業率は7.3%と予想(7.4%)より良好だったが、これは労働参加率が63.2(前月:63.4)と1978年8月以来の低水準にまで低下したことによるものだった。これを受けてドル/円は急落。さらに、「ロシアのプーチン大統領が『シリアが外部から攻撃を受けた場合、ロシアはシリアを支援する』と述べた」と報じられたこともあり、ドル/円は98.54円まで一段安となった。

② 10日、甘利経済再生担当相が「首相が9月末を目処に経済政策パッケージ取りまとめを指示」と述べると円安が進行。さらにムアラム・シリア外相の見解として「シリアは化学兵器を国際社会の管理下に置くとのロシアの提案を受け入れる」と伝わると、シリア情勢への懸念が後退し、100.45円まで上昇した。

③ 11日、オバマ大統領のシリアへの軍事行動に関する演説では、冒頭でシリアに対する軍事行動の必要性をオバマ大統領が強調したことを受けて、ドル/円は100.14円まで下落。しかし、同大統領が上院の採決延期を求め、国際協調の意向が示されたことから、反発。日経平均が上昇幅を拡大したことも追い風となり、100.61円の高値を付けた。ただし、その後は米長期金利の低下などを受けて反落した。

④ 12日、早朝に大手新聞社が「安倍首相は消費税を来年4月に8%へ引き上げる方針を固めた」と報じると(後に菅官房長官が否定)小幅に上昇したが、その後、日経平均が軟調に推移する中で失速した。

⑤ 16日、米連邦準備制度理事会(FRB)の次期議長最有力候補だったサマーズ氏(タカ派と見られていた)がこれを辞退したことが報じられると、ドル/円相場は窓を明けて下落して開始した。

⑥ 18日、米連邦公開市場委員会(FOMC)は市場の量的緩和(QE)縮小期待に反して金融政策据え置きを発表。ドル/円は急落した。さらにバーナンキFRB議長が「経済データは緩和縮小を正当化しない」「フォワードガイダンスを強化する方法はある」などとハト派的なコメントをすると一段安となった。

⑦ 19日、前日の急落の反動高でドル/円は上昇。日本と欧州の株高や、米経済指標の良好な結果などを追い風に99.61円まで上昇した。

⑧ 26日、一部通信社が「政府が取りまとめる経済対策について、法人税率下げに関しては『早急に検討』と明記する方向で調整」と報じたこと、年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)など公的年金についての有識者会議が開かれ、午後に会見を行うと報じられたことなどを背景に99.11円まで上昇した。

⑨ 30日、米国の予算協議が進まず、一部政府機関が閉鎖されるとの懸念が強い中、98円を割り込んで開始。「政府の経済対策最終案では2014年4月1日の消費税率8%への引き上げを確認。しかし法人実効税率の引き下げは明記せず」との一部報道があると97.50円まで値を下げた。

USD / JPY

今月のポイント

9月のドル/円相場は97.50～100.61円のレンジで推移。月間の終値ベースではほぼ横ばいの推移となった。月初、株高や米8月雇用統計の好結果を期待する動きからドル/円はジリジリと上昇したが、雇用統計が前月に続き、弱い内容だったことを受けて一旦は失速した。しかし、市場の9月米連邦公開市場委員会（FOMC）での量的緩和（QE）縮小スタートへの期待は高く、ドル/円は再び上昇した。ただ、その後、株価が伸び悩んだ上、FOMCで市場の期待に反してQE縮小をスタートしなかったことからドル/円は失速した。その後は米経済指標の良好な結果を受けて一旦切り返す様子も見せたが、10月FOMCでQE縮小スタートできるかについて不透明感が漂った上、米国の暫定予算や債務上限引き上げ協議が混迷する中でドル買いは進まず、月末にかけて再び軟化した。

米予算協議および債務上限引き上げ問題については「最終的には与野党で合意に至るだろう」との楽観論が強い。ただ、同協議が落ち着くまではドル/円の上値が抑えられる可能性がある。この協議が一服すれば、10月のFOMCでのQE縮小スタートの有無を窺う相場に戻るだろう。9月FOMC以降に出てきた経済指標や要人発言からコンセンサスを形成していく流れになると考えられる。米議会の与野党の対立がひと段落し、10月FOMCでのQE縮小スタートが濃厚、との見方が広がれば、ドル/円は再度100円台に乗せて上値を追う展開になることも十分に有り得るだろう。他方、10月FOMCでのQE縮小が出来ず、かつ12月FOMCについても懐疑的な見方が広がるようならば、大きく下押すことが有り得る点もまた留意しておきたい。（ジェルベズ）

（予想レンジ：95.50～102.00円）

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

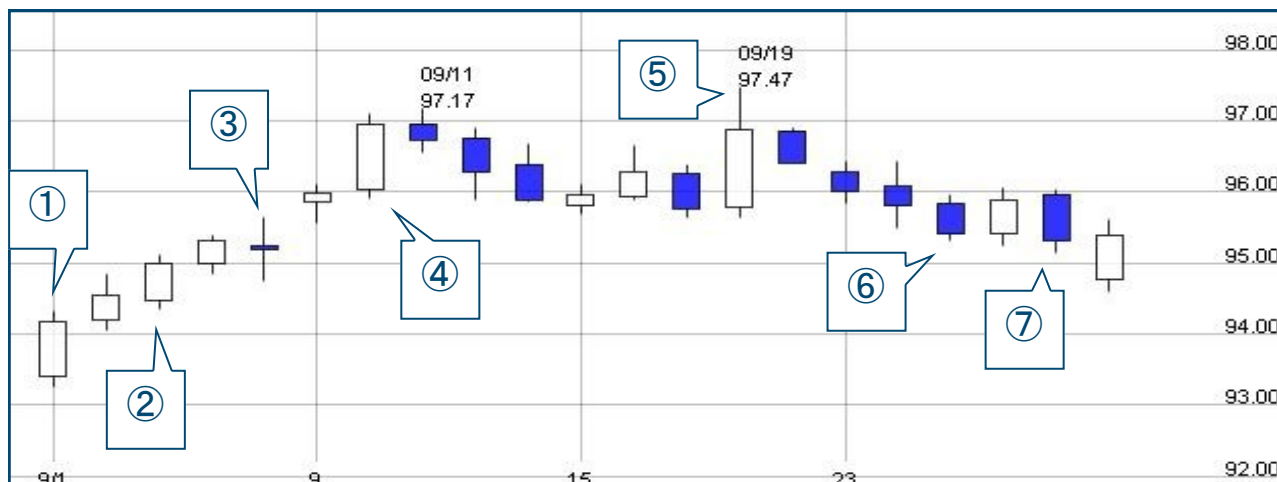
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
10/1(火)	日銀短観	10/16(水)	9月米消費者物価指数
	9月米ISM製造業景況指数	10/17(木)	9月米住宅着工件数
10/2(水)	9月米ADP全国雇用者数		9月鉱工業生産
10/3(木)	9月米ISM非製造業景況指数		10月米フィラデルフィア連銀景況指数
10/4(金)	日銀金融政策決定会合(3日～発表)	10/18(金)	第3四半期中国GDP
	9月米雇用統計	10/21(月)	9月本邦通関ベース貿易収支
10/8(火)	8月本邦経常収支・貿易収支	10/25(金)	9月米耐久財受注
	8月米貿易収支	10/29(火)	9月米消費者信頼感指数
10/9(水)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (9月4日・5日分)	10/30(水)	10月米ADP全国雇用者数
	FOMC議事録(9月17・18日)		第3四半期米GDP・速報値
10/11(金)	9月米小売売上高		FOMC政策金利発表
	10月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値	10/31(木)	日銀金融政策決定会合
10/15(火)	10月米NY連銀製造業景気指数		10月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

カナダ/円 9月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	93.41円	97.47円	93.25円	95.40円



①	2日、前週末に発表された中国8月製造業PMIが予想を上回る好結果となった事を受けて93円台に上昇して取引を開始した。その後、本邦4-6月期法人企業統計で設備投資(除ソフトウェア)が+14%と予想外(-3.8%)の増加となった事を受けて、4-6月期国内総生産(GDP)・二次速報(9日発表予定)が上方修正されるとの期待から株高・円安が進み、93.70円台へ上伸。さらに、シリアへの西側諸国による軍事介入が即座に行われないとの見方から欧州株が上昇すると、94.30円台まで上値を伸ばした。
②	4日、カナダ中銀(BOC)は政策金利を1.00%に据え置くと発表した。声明では「国内経済にかなりの緩みが存在し、インフレ見通しが抑制され、家計部門の不均衡の動向が建設的に進展し続ける限り、現在実施されている著しい金融刺激は引き続き適切となる」と、前回の文言を踏襲。成長見通しについても7月時点からほぼ変わっていないとの認識を示したため、直接的な反応は限られた。ただ、世界的に景気の先行きに対する懸念が和らぎ、欧米株価が堅調に推移する中でカナダ/円は95円台へ上昇した。
③	6日、加8月雇用統計は失業率が7.1%、雇用ネット変化が5.92万人増と、いずれも予想(7.2%、2.00万人増)よりも良好な結果となった。しかし、同時刻に発表された米8月雇用統計の非農業部門雇用者数が予想を下回る増加幅にとどまり、ドル/円が急落したため、カナダ/円は乱高下した。
④	10日、前日にロシア外相が示した「軍事攻撃を回避できるならシリアに対して化学兵器を国際管理下に置くよう要請」との提案に対し、シリア外相がこれを受け入れる意向を示した。米国によるシリアへの軍事介入の可能性が大きく低下したとの見方から欧米株価が上昇する中、97円台まで上昇した。
⑤	19日、前日の米連邦公開市場委員会(FOMC)で量的緩和の縮小が見送られた事を受けてアジアや欧州市場で株高が進むと97.47円の高値を示現した。
⑥	25日、ルー米財務長官が「債務上限問題について、投資家は楽観視し過ぎている」「10月17日までに借り入れ上限に達すると予想」などとの見解を示した事を受けて、小高く推移していた米国株が下落に転じると、95.30円台まで値を下げた。
⑦	27日、米国の新会計年度に向けた予算策定の期限が30日に迫る中、(与党民主党が多数を占める)上院と(野党共和党が多数を占める)下院の折り合いがつかず、政府機関の一部閉鎖の可能性が高まるとリスク回避の動きが強まり、95.14円まで下落。週明け30日には94円台に下落して取引が始まった。

CAD/JPY

今月のポイント

9月のカナダ/円相場は93.25円～97.47円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約2.4%の上昇(カナダドル高・円安)となった。前月末に広がったシリア情勢への過度の懸念が後退する中、上旬は93円台前半から97円台前半まで堅調に推移。その後はやや伸び悩み場面も見られたが、米FOMCが量的緩和の縮小を見送り、世界的に株価や商品価格が上昇した19日には、約2カ月ぶり高値となる97.47円まで上値を伸ばした。ただ、四半期末が迫った下旬に入ると徐々に上値を削り、米政府機関の一時閉鎖が現実味を帯びた27日には95円台前半まで軟化。翌週30日には一時94円台に下値を切り下げて、95.40円で9月の取引を終えた。

カナダ/円は、今年5月に約4年8ヶ月ぶりとなる101.03円の高値を付けた後は、やや高度を下げて91円から97円の大ぶりなレンジで上下動を繰り返しているが、カナダ中銀が将来的な利上げを見据えている一方(市場は14年半ばから後半にかけての利上げを見込んでいる)、日銀が異次元緩和の長期化を示唆している中、中長期的なカナダドル高・円安基調に変化はないと見る。ただ、足元では不透明要素が多い事も事実であり、10月については目先のレンジを大きく逸脱する事はなさそうだ。最大の不透明要素は米金融政策であり、量的緩和の縮小についての道筋が読みづらくなっている事が、投資家のリスク選好への動きを抑制していると考えられる。米財政問題と米景気の先行き懸念が連邦公開市場委員会(FOMC)の緩和縮小についての判断を遅らせている可能性が高く、10月30日の米FOMC前後までは、為替市場全体に神経質な相場展開が見込まれる。もっとも、カナダドルの中長期的な上昇が見込まれる中、93円を下回る水準は絶好の押し目と考える事もできよう。(神田)

(予想レンジ92.50円～98.00円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
10/1(火)	日銀短観	10/17(木)	9月米住宅着工件数
	9月中国製造業PMI	10/18(金)	第3四半期中国GDP
	9月米ISM製造業景況指数		9月中国鉱工業生産
10/2(水)	9月米ADP全国雇用者数		9月加消費者物価指数
10/3(木)	9月米ISM非製造業景況指数	10/21(月)	9月本邦通関ベース貿易収支
10/4(金)	日銀金融政策決定会合(3日～発表)	10/22(火)	8月加小売売上高
	9月加Ivey購買部協会指数	10/23(水)	加中銀政策金利発表
	9月米雇用統計	10/25(金)	9月全国消費者物価指数
10/8(火)	8月本邦経常収支・貿易収支	10/30(水)	10月米ADP全国雇用者数
	9月加住宅着工件数		第3四半期米GDP・速報値
10/9(水)	FOMC議事録(9月17・18日)		米FOMC政策金利発表
10/11(金)	9月加雇用統計	10/31(木)	8月加GDP
	9月米小売売上高		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。